

1. 平成 28・29・30 年度の地域医療構想調整会議 開催時期・概要

	時 期	テ ー マ	備 考
①	平成 28 年度 11 月 7 日 (月) 18:00~19:30	(1) 滋賀県地域医療構想および調整会議について (2) 平成 27 年病床機能報告結果等 (3) 地域医療介護総合確保基金	医療構想の基本方針・方向性と、 圏域に適した医療機能の維持と在宅医療の推進に向けた議論をしていくことの確認。
②	平成 29 年度 第 1 回 8 月 4 日 (金) 18:00~19:30	(1) 2025 年を見据えた医療と介護の提供体制 ①在宅医療の需要見込み ②滋賀県保健医療計画・介護保険事業計画 (2) 目指すべき医療提供体制の実現について ①H28 年度病床機能報告 ②医療機能調査結果概要 (医療分) (3) H30 年度地域医療介護総合確保基金 (医療分)	H29 年度より、 <u>委員に介護関係者を加え、医療と介護の一体化を。</u> <u>保健医療計画・介護保険事業(支援)計画の同時改定の議論。</u> (「医療と介護の協議の場」としても開催)
③	平成 29 年度 第 2 回 11 月 27 日 (月) 18:00~19:30	(1) 滋賀県保健医療計画 (素案) (2) 目指すべき医療提供体制の実現に向けて ～医療機能の分化・連携、慢性期機能について～	(11/9 2025 プランについて、病院関係者で協議) 2025 年に向けた機能分化連携の協議の中で、特に圏域の課題である慢性期機能の区域内完結に関する論点を中心に議論。
④	平成 29 年度 第 3 回 平成 30 年 3 月 1 日 (木) 14:00~16:00	(1) 目指すべき医療提供体制の実現について ①これまでの協議経過・論点整理 ②目指す全体像の共有 ③慢性期・在宅医療の現状と見通しの意見交換 (2) 今後の方向性・進め方	慢性期機能・在宅医療の検討を進めつつ、地域包括ケアの推進をめざし、 <u>バランスの良い医療機能の具体化に向けて、引き続いて協議していく(調整会議以外も含む)ことを共有した。</u>
⑤	平成 30 年度 第 1 回 7 月 26 日 (木) 18:00~20:00	(1) 湖北圏域地域医療構想について ①湖北圏域の現状と課題、医療構想の概要 ② 地域医療構想調整会議の経過と今後の方向性 (2) 目指すべき医療提供体制の実現に向けて ① 高度急性期・急性期医療機能の現状 ② 地域医療介護総合確保基金の提案事業	慢性期機能の議論とともに、 <u>高度急性期・急性期医療の現状把握と機能分化について議論を進めた。</u> 「市立長浜病院と長浜赤十字病院との一体的連携に向けた協議」の開始を確認した。
⑥	平成 30 年度 第 2 回 12 月 13 日 (木) 18:00~20:00	(1) 圏域の医療を取り巻く現状について ①病床機能報告を定量的視点から見た分析結果 ②各医療機能の特徴と医療提供体制の課題 (2) 湖北圏域の医療提供体制の将来像について ①目標年における圏域の将来像 ②将来像に向けた具体的な方策の見通し	各医療機能や医療介護ネットワークの現状、および「高度急性期・急性期医療を考える研究会」結果を共有した。 <u>圏域医療構想の目標年 2025 年における医療機能再編の具体化に向け、段階的な動きを、早急に始めることが合意された。</u>
⑦	平成 30 年度 第 3 回 平成 31 年 3 月 11 日 (月) 18:00~19:00	(1) 湖北圏域における目指すべき医療提供体制 ①病院機能の再編について ②実現のための作業 (2) 平成 31 年度地域医療介護総合確保基金	病院関係者を中心に協議を重ね、 <u>圏域の医療提供体制(目標)を目指した病院機能の再編案</u> について報告され、今後、その実現に向けた具体的な作業を進めていくことが合意された。

2. 地域医療構想調整会議で議論されてきた課題の整理

(1) 医療機能について（病院機能の再編）

① 高度急性期・急性期機能について

- ・区域内完結率が高い(高度急性期 86.9% 急性期 89.3%)
- ・疾患別に見た医療機能完結率は、他圏域と比べて高い
(がん 87%、急性心筋梗塞 96%、脳卒中 91%、成人肺炎 91%、大腿骨頸部骨折 94%)
- ・特に高度急性期機能は、市立長浜病院と長浜赤十字病院が互いに協力しながらその役割を担ってきた経緯がある。

将来の医療需要の変化や医師確保の困難さ等の課題を受けて、その一体的な連携とはどのようなあり方がよいのかということについて、今後、迅速かつ段階的に、具体的協議を進める必要がある。

② 慢性期機能について

- ・区域内完結率が 22.9%と低い(湖東区域・東近江区域・近隣府県への流出)
- ・区域内療養病床の利用率は 53.2%と、全国平均(89.9)県平均(90.6)より低い。
- ・流出している慢性期患者の量や状態像・流出先等と、受入れ資源の質や量のバランス等(需要と共有の実態)について協議。医療機能と介護機能の連携も含めての議論となる。

③ 回復期機能について

- ・医療構想の推計では、「回復期病床は不足する」とされるが、病床機能報告は病棟単位の報告であることから、急性期で報告されている病棟にも回復期の患者が含まれる可能性があるなどの状況から、患者の流れや病棟稼働率、他の病棟での回復期患者の受入れ状況等の実情を振り返り、圏域における需要と供給の検討が、引き続き必要とされる。

(2) 在宅医療・介護、看取り医療・介護

- ・湖北圏域では、訪問診療実施率は、早くから他圏域より高い。また、在宅(自宅・施設)看取りも、早くから県内他圏域と比べて非常に高い。
- ・将来的に、在宅医療実施医師の高齢化や後継者不足が危惧される。
- ・在宅医療供給の可能性にかかる現状、および将来見通しの把握も必要。
- ・在宅医療を支えるためのバックアップ体制にかかる検討も引き続き必要。

(3) 人材確保・育成

- ・医師をはじめとする医療・介護の人材不足が、病床利用率や施設介護・在宅介護にも影響している。
- ・特に高度急性期・急性期においては、医師の負担が大きく、集約化が求められている。
- ・人材育成や人材確保とともに、人的資源の連携についてより一層強化していくための検討が必要。

(4) 啓発

- ・圏域の目指す医療提供体制について、市民に分かりやすく情報提供していくことが重要

3. 今後の方向性

- ・「圏域における将来の病院機能(イメージ図)」の合意
- ・2025年に向けた段階的な協議
- ・市民啓発、周知

4. および今年度の予定

① 湖北圏域地域医療構想調整会議

年3回開催（時期 8月・11月・3月 予定）

- ・「病院機能再編」の具体化に向け、圏域が一体となった目標に向けて、段階的に進めていく
- ・市民啓発について協議する
- ・地域～病院～施設・在宅～看取りの切れ目ない地域包括ケアを進める上で、保健・予防・医療・介護・福祉の各機能の共有と連携の具体的な推進

② 地域医療構想調整会議以外の協議の場

関係者間での協議

再編に係る学習会

地域包括ケアの推進に向けた圏域の動きについての啓発・広報等

③ 全県における地域医療構想調整会議の進め方

④ その他

- ・周産期医療における県との連携
- ・小児救急、循環器(脳卒中、心疾患)のブロック化について
- ・医師確保に係る圏域内医療機関の共有